

ち」はがんばれそうです。

「まあち」を取りまく所沢の介護保険事情

所沢市は埼玉県の西南部に位置し、都心まで30分程のベッドタウンです。人口32.5万人、高齢化率は県内平均値に近い11.7%、介護保険認定者数はおよそ2900名、うち施設入所者数700名程を除いた約2200名が在宅介護の対象者と思われまます。県内でも先進的という事で何かと話題を集めています。訪問調査は100%市が行い、認定審査会の数が多く、利用者への独自の助成としては障害手帳1~3級保有者には1割負担分の全額助成が売りです。市の担当者によると、ケアプラン作成は社会福祉協議会、医療生協、R福祉法人、所沢市の4者の占める率が高く、ヘルパーの数では「『まあち』さんは大手ですね」とのことです。

一方利用者はいいにつけ悪いにつけ訪問調査での事業者の困り込みが不可能なため、ケアプラン作成にあたっての事業者選択の情報が少ないようです。そこで「まあち」としては、ケアマネージャーからの仕事待ちだけではなく、ヘルパー1人1人が地域の情報の引き出しをたくさん持って頼れる相談者となり、質のいいケアマネージャーを見つけて利用者をサポートしていく。つまり、ヘルパーがケアマネージャーを選ぶ訳で、そこから仕事の可能性が見えてくる。「まあち」の生きる道は、ここらあたりでありそうです。

「まあち」の可能性

7月15日に待っていた指定事業者の許可が下り、いよいよ8月からサービス開

始。記念すべき最初の利用者は“Mさん”52才の女性です。胃が痛くなる程の不安を抱えての初仕事は月半ばからで総時間22.5時間、手にする予定の介護報酬はズシリと重い53560円です。Mさんからの評価が気になるところです。9月は利用者が3人に増えて、70時間のサービス予定。訪問介護のみの事業であるため、1人ずつ利用者を増やしていく地道な努力が何より必要だと痛感します。

収益面では、第1のハードルを月300時間に設定。ここで単独で事務所経費が生み出せまます。次に500時間に目標を置き、働いた人の時給の改善につなげたいものです。

ヘルパー数では大手(?)の「まあち」は、人材豊かです。現在登録者は38名、内訳は介護福祉士2名、1級ヘルパー1名、2級ヘルパー21名、3級ヘルパー14名、専門資格として栄養士、調理士、住環境コーディネーター、看護婦などなど。さらに、今年ケアマネージャーにチャレンジをする人もいます。高齢者を、丸ごと地域で支えるしくみを作っていける大きな可能性を秘めているのです。40万円にも満たない資金で小さな第1歩をふみ出した「まあち」の試みが、人と地域を大切にしたい高齢協の仕事起しにつなげられる様がんばりたいものです。

